

## 埼玉大学図書館報

### 目次

新しい教養教育のさらなる充実に向けて ..... 1	科学文献データベース Scopus トライアルについて ..... 6
次期全学ネットワークシステムの概要 ..... 3	図書館空調設備の整備について ..... 7
フェアブル・コレクション展報告 ..... 4	本学教員等著作の寄贈図書 ..... 7
図書館視察研修会報告 ..... 6	平成17年4月～17年9月のできごと ..... 8

## 新しい教養教育のさらなる充実に向けて

山口宏樹

平成16年4月の法人化を契機に、埼玉大学は独自に全学教育・学生支援機構（以下、教育機構という）を設置し、文字通り、全学的な教育および学生への様々な支援に関して企画・立案・実施・点検を行ってきている。

特に全学教育に関しては、埼玉大学が文系・理系5学部から成り、それらを1キャンパスに集めた総合大学であるという特徴を活かして、広い視野を持ち国際的に有為な人材の育成を目的とした新しい教養教育を、平成17年4月よりスタートさせた。詳しくは関連の website<sup>1), 2)</sup> をご覧頂きたいが、学部の入門的な専門教育科目を他学部学生にとっての教養教育科目とし、「広さ Breadth」を有する専門教育として教養教育を位置付けた、いわゆる全学開放型の教養教育プログラムや、教養教育にさらに「深さ Depth」を加えた副専攻プログラム、「相互

関連性 Coherence」を加えた学問分野横断的なテーマ教育プログラム、および TOEIC により明確な目標を設定し、コンピュータ支援の CALL 授業をはじめとした新しい英語スキル教育プログラムなど、ユニークな全学的教育を展開している。

この背景には、平成12年11月に出された大学審議会の答申「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」において「教養教育」の重要性が強調されたこと、および平成14年度に大学評価・学位授与機構が行った埼玉大学の教養教育評価において厳しい評価結果を得たこと<sup>3)</sup>がある。これを受け、全学教育企画準備室において新しい教養教育の構想が精力的に議論され<sup>4)</sup>、教育機構の全学教育企画室において教育プログラムが具体的に設計された。その際、平成15年度に工学部4学科が受審した JABEE（日本技術者教育認定機構）による認

表1 平成16・17年度(前期)教養教育実績比較

系区分	科目数		受講者総数 (人)		平均受講者数 (人/科目)		単位修得率 (%)		授業評価 (平均値)	
	16年度	17年度	16年度	17年度	16年度	17年度	16年度	17年度	16年度	17年度
人文系	42	32	2,473	2,517	59	79	76.1	72.1	3.70	3.66
社会系	37	65	2,152	2,558	59	40	83.0	75.2	3.86	3.76
自然系	29	44	1,260	1,311	44	30	79.8	79.9	3.88	3.57
情報系	15	16	1,005	1,328	67	83	93.1	84.7	3.72	3.62
体育系(スポーツ実技)	48	34	1,855	1,543	39	46	96.5	96.9	4.30	4.20
(健康スポーツ科学)	6	4	603	794	101	199	89.4	87.8	—	—
外国語系(英語)	155	194	6,751	6,681	44	35	87.9	88.8	3.91	3.95
英語Ⅰ	84	124	3,856	3,966	46	32	89.5	90.9	—	3.20*
英語Ⅱ	71	70	2,895	2,715	41	39	85.6	85.7	—	—

\* 英語Ⅰ(CALL):授業評価項目が異なるため、他との直接的な比較はできない。

定審査もまた、少なからず影響を及ぼしている。つまり、JABEE 審査は技術者教育という特定の専門教育プログラムの認定審査であるものの、学習・教育目標の設定、教育プログラムの実質的実施、プログラム修了生の水準保証、教育の継続的改善といった、教養教育の実質化に際しても大いに参考とすべき具体的審査項目を多く含んでおり、教育の質の保証の考え方が、少しずつではあるが、全学的に浸透してきたと言える。

新しい教養教育はこのようにしてスタートし、半期を終えた今、PDCA (Plan, Do, Check, Action) のスパイラル・ループによる継続的教育改善システムの一環として、その点検が教育機構において行われつつある。表1に平成17年度前期教養教育の実績統計量を平成16年度前期共通教育のそれと比較して示した。教養教育に関する形態や卒業要件の変更により、科目数、受講者総数が変化し、結果として1科目当たりの平均受講者数がかかなり変化していることがわかるが、教養教育の質の保証の観点からは、特に単位修得率および授業評価結果について注目すべきであろう。統計量の単純な比較には注意を要するものの、体育系・外国語系では単位修得率、授業評価平均値がともにほとんど変化していないのに対し、人文系・社会系・自然系・情報系ではそのほとんどの値が平成17年度に下がっており、特に社会系・情報系の単位取得率が約8%、自然系の授業評価平均値が約0.3の低下を示している。新し

い教養教育では、ある学部の専門教育科目を他学部の多様な学生が教養教育科目として履修することから、想定される履修上の基礎知識不足等が単位取得率や授業評価にどのように影響しているかについて、詳細に分析し改善に努める必要があると考えている。

教養教育の実質化において、教育目標の明確な設定と厳密な成績評価が重要であると同時に、実施に当たっては科目シラバスの充実が不可欠とされる。特に、全学開放方式によって生じる履修学生の多様性に配慮して、学生が自ら知的好奇心を持って学習し単位を修得することができるよう、シラバスによって情報提供することの意義は大きい。一つに教科書や参考書の提示があるが、表2に示すように、平成17年度教養教育シラバスに明記されている書籍の数は決して多いとは言えない。「講義中、必要に応じて参考書を示す」等と記載されている科目も数多く存在するが、いろいろな形で情報を提供することが重要であろう。

このような状況にあって、教育機構と埼玉大学図書館は、新しい教養教育のより一層の充実を目指し、また図書館の基本的な蔵書を強化する目的で、教養教育科目担当の全教員から、学生用基本教養図書を募っている。これに積極的に協力いただくとともに、教科書や参考書のシラバスでの明記を是非ともお願いしたい。

(全学教育・学生支援機構副機構長、工学部教授)

表2 教養教育シラバスに明記されたテキスト・参考書

系区分	シラバスのある科目数	書籍が示された科目数 (科目総数に対する割合)	シラバスに明記された書籍数
人文系	46	14 (30.4%)	39
社会系	63	51 (81.0%)	123
自然系	71	42 (59.2%)	94
自然系1	30	14 (46.7%)	25
自然系2	41	28 (68.3%)	69

自然系1:理学部開設 自然系2:工学部開設

- 1) <http://www.saitama-u.ac.jp/koho/enter/new-edu.html> (埼玉大学の新しい全学教育)。
- 2) <http://sirabasu.gks.saitama-u.ac.jp/> (教養教育電子シラバス)。
- 3) 大学評価・学位授与機構:「教養教育」評価報告書-埼玉大学、平成15年3月。
- 4) 埼玉大学全学教育企画準備室:埼玉大学の新しい教養教育構想、埼玉大学将来構想委員会(平成16年3月29日)資料、平成16年3月。

## 次期全学ネットワークシステムの概要

重原孝臣

情報メディア基盤センター(以下「センター」と略す)で平成19年3月運用開始を目指して計画を進めている次期全学ネットワークシステムの概要をご紹介します。

次期ネットの特徴を一言で言えば「FTTL」(Fiber to the Laboratory)。要するに、キャンパスの中央に全学のネットワークサーバ室を設置し、そこから全学の各部屋に向けて光ファイバーを直接引く「直収スター型光ファイバーネットワーク」である。FTTLの導入によって、ネットワークの管理運用を全学的に一元化でき、全学のセキュリティポリシーに基づくセキュアでフレキシブルなネットワーク基盤を構築できるばかりでなく、中長期的には物的・人的コストの大幅な削減につながるものと期待している。

次期ネットでは認証を伴うVLAN(仮想ネットワーク)技術を活用する計画である。VLAN技術を活用すれば、物理的には一つの直収スター型ネット上に論理的には事実上無数のネットワークを構築できる。たとえば、「経済学部平成19年度入学者VLAN」(以下、仮にVLAN-Aと呼ぶ)という認証VLANを作れば、該当者がアクセスできる学内LANをVLAN-Aだけに制限できる。もちろん、VLAN-Aに属す

る利用者は、他の学内VLANが外部に対して行っているサービスは受けることができ、また、インターネットもこれまでどおり利用できる。このようにVLANを細かく切ることによって、VLAN-Aに属するユーザが無意識に不正パケットをネット上に流しても、当該パケットをVLAN-Aに局在化させることができ、これによってネット被害が他のVLANに広がることを抑止できるようになる。また、ネット利用に認証を導入することで、当該ユーザは学内のどこからでも自分の属するVLANを利用できるようになる。今後、多部署に跨るプロジェクト型研究の推進をはじめとして、建物横断型の組織がダイナミックに生まれてくることが予想されるが、VLAN技術を活用すれば、異なるフロアや建物に属する複数の部屋を一つの独立したネットにまとめることも可能になる。

次期ネットでは、部屋ごとに最低でも100Mbpsの帯域を確保できる。部屋の用途に応じ、1Gbpsまたはそれ以上の帯域を確保することも可能で、通信速度に応じたメディアコンバータを準備さえすれば、物理的配線には一切手を触れずに通信速度を向上できる。

次期ネットへの初期投資は決して安くはないが、

10-20年の時間スケールでみたときには格安である。まず、シングルモードの光ファイバーを敷設しておけば、今後、物理的再配線の心配はしなくてよい。また、従来の多段ネットでは部局、建物、フロア単位で定期的にネットワーク機器を更新する必要があるのに対し、次期ネットは直収スター型で中間にスイッチ類を一切設置しないので、各部局においてネットワーク機器にかかるコストは今後発生しないと考えていただいてもよい。(部屋ごとにハブを準備いただくことくらいは必要になるが。)更に、各部局で管理いただくネットワーク機器は基本的になくなるので、部局単位にネットワーク管理のスペシャリストをおく必要がなくなり、人的コストが大幅に削減できるばかりでなく、これまでネットワーク管理に忙殺されてきた教職員の方々に本来行うべき教育や研究をはじめとする業務に専念いただける。

現在、初期投資への学内負担を軽減するために平成18年度概算要求を行っており、19年3月の運用開始を目指して18年度中にネットを構築する計画である。このため、センターの情報処理システムの更新も1年延長させていただくこととしており、次期システムの導入は次期ネットの運用開始にあわせ19年3月になる予定である。次期システムでは情報教育センターや各学部の教育用PCも調達対象とし、ブートサーバをセンターで一元管理し、ネットブートで教育用PCをご利用いただく方式を検討している。システム更新が遅れ、利用者の方々にご迷惑をおかけすることを大変心苦しく思うが、グローバルな観点からご理解・ご協力を賜りたく考えている。図書館システムの更新も同時期に行うこととしており、今後、センターシステムと図書館システムは密接に連携していくことになる。

(総合情報基盤機構 情報メディア基盤センター 教授)

## フェアブル・コレクション展報告

当館では、16年度末から収蔵することとなった「フェアブル・コレクション」の展示会を、7月2日から7月31日の間、2階エントランス展示コーナーで開催した。

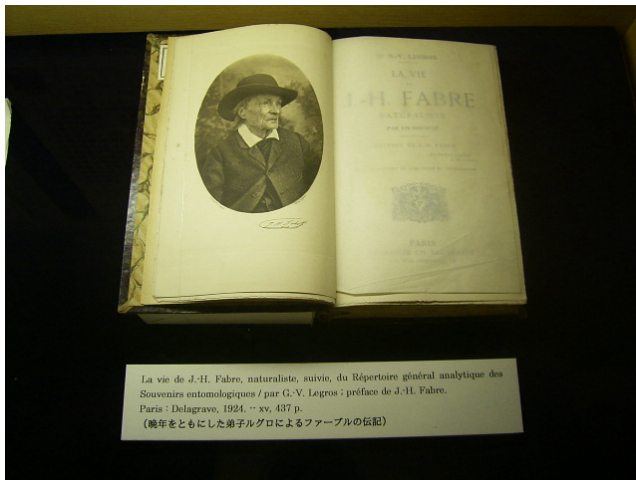
フェアブル・コレクションは、本誌第3号([http://www.lib.saitama-u.ac.jp/musashi\\_e/m\\_e003.pdf](http://www.lib.saitama-u.ac.jp/musashi_e/m_e003.pdf))でも紹介されているとおり、ジャン＝アンリ・フェアブル(Jean-Henri Fabre 1823-1915)が1856年にフランス・アカデミーのモンティヨン賞を受賞した論文の自筆草稿や、『昆虫記』の初版

(1879年)・決定版(1925年)及び邦訳諸版、『初等化学』をはじめとする科学啓蒙書、プロヴァンス語による詩集などからなり、フェアブルの広範な業績を様々な角度からうかがい知ることができる貴重な資料群である。

今回の展示会では、フェアブル・コレクションの中の主な著作を選び、〈フェアブルの肖像〉、〈「昆虫記」の世界〉、〈その他の著作〉、〈「昆虫記」の挿絵本〉、〈日本のフェアブル〉に区分して展示公開した。



展示状況



#### 展示資料から

La vie de J.-H. Fabre. Paris : Delagrave,  
1924. (弟子ルグロによるファールブルの伝記)



展示会用ポスター

埼玉大学開放デーが実施された7月16日(土)には、この展示会が開放デー・イベントのひとつとなり、当日は自筆草稿の特別展示も行われた。また、展示会場には学内スタンプ・ラリーのブースが設けられ、開放デーのスタンプとともに、右のような展示会専用スタンプを押してもらった子供たちの姿も多く見うけられた。

スタンプ・ラリーの  
スタンプ・キャラクター →



なお、ファールブル・コレクションについては、本学総合研究機構の平成17年度研究プロジェクトに、時田図書館長を研究代表者として「ファールブル・コレクションの基礎的研究」に関する研究経費を申請し、採択された。この経費により、ファールブル・コレクションに含まれる草稿8点のなかから、特に貴重とされる下記の3点の草稿について、活字に翻刻するとともにデジタルデータ化し、その一部とその

他の研究成果とをあわせて、図書館ホームページ上で公開する予定である。

- ・「ツチスガリ研究ノート」  
(モンティオン賞受賞論文草稿)
- ・「ヤスデ研究ノート」  
(パリ大学博物学(動物学篇)学位論文草稿)
- ・「チドリソウ研究ノート」  
(パリ大学博物学(植物学篇)学位論文草稿)

## 図書館視察研修会報告

10月7日（金）午後、埼玉県図書館協会及び埼玉県立熊谷図書館主催の図書館視察研修会が、当館で開催されました。この視察研修会は、県内市町村立図書館等の職員の方を対象として行われるもので、今回は43名が参加されました（事務局職員を含む）。

当日は、当館の現状と課題について、学内学術情報の収集・組織化・発信、図書館資料の計画的収集、利用者サービスの充実、地域との連携、業務の合理化などを説明した後、館内の閲覧室、書庫などを見学していただきました。

当館では、館種を超えた県内図書館ネットワークの拡充を図り、県民へのより多様な資料提供を実現することを目的として、本年3月に埼玉県立図書館（浦和図書館、熊谷図書館、久喜図書館）と相互協力協定を締結しました。4月からは、県立図書館間を週5日運行している連絡車のコースに当館が加わり、スムーズな物流体制の下に蔵書の相互貸借などを行っています。こうした視察研修会開催なども県内図書館ネットワークの充実に寄与するものと認識し、今後も機会があれば協力していく予定です。



### 科学文献データベース Scopus トライアルについて

世界4,000以上の出版社の、14,000誌以上のジャーナルに掲載された文献2,700万件以上の抄録を掲載し、毎年110万件以上が追加される科学文献データベース Scopus の長期トライアルを実施しています。

収録ジャーナルの各分野別内訳は、次の通りです。

化学・物理学・数学・工学：	4,500	ライフ&サイエンス：	5,900
生物学・農業科学および環境科学：	2,500	*Medline を100%網羅	
社会科学・心理学および経済学：	2,700	一般科学：	50

- ・本学で契約しているエルゼビア社の電子ジャーナルに素早く、簡単にリンクすることができます。
- ・抄録は最も古いもので1966年まで遡ります。
- ・右のURLからご利用ください。<http://www.lib.saitama-u.ac.jp/reference/trial/trial.html> - scopus
- ・詳しい利用方法は、以下のScopus日本語サポートページをご覧ください。

<http://japan.elsevier.com/scopussupport/index.html>

## 図書館空調設備の整備について

近年図書館では、館内設備老朽化等のため、夏季及び冬季における閲覧室の冷暖房が十分でない状況が続く一方で、年々の修理費用もかさむようになっておりました。空調設備の更新には多額の費用を要することからその整備は遅れていましたが、このたび学長裁量経費の配分を受け、整備を進めることができるようになりました。

今年度の整備は、館内の主要閲覧室を対象にしています。従来、全館一括集中型だった空調設備は、これらの閲覧室では個別にオンオフ・温度調整できるので、快適な利用環境の下で過ごせるようになるのと同時に、省エネ面でも夏季における学内電力使用の抑制

につながります。

工事は、年明けから3月末までが見込まれています。学内後期試験が実施され、図書館の利用も最も多くなるこの時期、工事対象となる閲覧室にある図書などについては、他の閲覧室に移し替えて、工事中でも利用できるようにいたしますが、図書の移し替えの際、やむをえず数日程度、臨時休館させていただきます。

利用者の皆様には、いつも使っている図書の置き場所が変わったり、閲覧席が少なくなるなどのご不便をおかけいたしますが、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

## 本学教員等著作の寄贈図書

(平成17年4月～平成17年9月)

### 田隅 三生 (学長)

- ・分子から機能性物質・生体まで  
放送大学教育振興会, 2005年
- ・標準化学用語辞典 第2版 丸善, 2005

### 安達 忠夫 (教養学部)

- ・ミヒヤエル・エンデ 講談社, 1988
- ・感性をきたえる素読のすすめ  
カナリア書房, 2004
- ・脳と音読 講談社, 2004

### 船橋 一男 (教育学部)

- ・「心のノート」の方へは行かない  
子どもの未来社, 2004

### 中江 博行 (経済学部)

- ・法人税法講座 税務経理協会, 2005

### 時田 澄男 (工学部)

- ・エレクトロニクス用機能性色素  
シーエムシー出版, 2005

### 佐藤 準一 (工学部)

- ・摩擦への挑戦 コロナ社, 2005

### 大滝 英征 (工学部)

- ・確率・統計手法による寸法公差決定法  
日刊工業新聞社, 1994
- ・新・機械設計学 数理工学社, 2003
- ・まるごと実用設計計算便利帳  
日刊工業新聞社, 2004

ご惠贈誠にありがとうございました。今後もご刊行の節はご協力くださいますようお願いいたします。

## 平成 17 年 4 月～17 年 9 月のできごと

### 会 議

- |           |                           |
|-----------|---------------------------|
| 17. 4. 26 | 総合情報基盤機構会議（平成 17 年度第 1 回） |
| 17. 9. 15 | 蔵書構成検討委員会（平成 17 年度第 1 回）  |
| 17. 9. 27 | 総合情報基盤機構会議（平成 17 年度第 2 回） |
| 17. 9. 28 | 総合情報基盤機構人事管理委員会           |
| 17. 9. 30 | 大学情報発信プラザ・ボランティアとの意見交換会   |

### 事業等

- |                  |                                |
|------------------|--------------------------------|
| 17. 4. 1         | 埼玉大学図書館と埼玉県立図書館との相互協力のサービス開始   |
| 17. 4. 4         | eBook(電子図書) NetLibrary のサービス開始 |
| 17. 4. 18- 4. 22 | 新入生向けオリエンテーション実施               |
| 17. 5. 31        | 留学生向けオリエンテーション実施               |
| 17. 7. 2 - 7. 31 | フェアブル・コレクション展実施                |

### 学外会議等

#### 国立大学図書館協会

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 17. 6. 30 | 第 52 回総会（名古屋大学）   |
| 17. 7. 1  | マネジメントセミナー（名古屋大学） |

#### 関東地区国立大学図書館協議会

- |           |                |
|-----------|----------------|
| 17. 4. 21 | 第 61 回総会（茨城大学） |
|-----------|----------------|

#### 埼玉県大学・短期大学図書館協議会

- |           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 17. 5. 27 | 平成 16 年度第 4 回幹事会（聖学院大学） |
| 17. 5. 27 | 第 18 回総会（聖学院大学）         |

#### 埼玉県図書館協会

- |           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 17. 5. 19 | 平成 17 年度理事会（埼玉教育会館）   |
| 17. 6. 10 | 平成 17 年度総会（さいたま商工会議所） |
| 17. 9. 30 | 平成 17 年度常任理事会（埼玉教育会館） |

#### 埼玉大学と埼玉県立図書館の相互協力連絡会

- |           |                          |
|-----------|--------------------------|
| 17. 4. 7  | 第 1 回連絡会（当館）             |
| 17. 4. 27 | 第 1 回実務担当者連絡会（当館）        |
| 17. 7. 8  | 第 2 回実務担当者連絡会（埼玉県立浦和図書館） |

#### その他

- |           |                    |
|-----------|--------------------|
| 17. 9. 30 | 大学図書館研究集会（日本図書館協会） |
|-----------|--------------------|

埼玉大学図書館報 「むさしの」電子版 第 4 号 平成 17 年 11 月発行  
 編集発行 埼玉大学図書館 〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255 電話 048(858)3666

URL <http://www.lib.saitama-u.ac.jp/>